

II 特別連載 II

科学技術
振興機構

『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第272回

2020年初旬以降、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による海外からの渡航制限のため、さくらサイエンスプログラムでも招へいが実施できない状況が続いている。科学技術振興機構(JST)では、これまでの交流により醸成された海外の送出し機関と日本の受入れ機関の良好な関係を継続させるため、また新たな交流に向けた準備のために、各機関によるオンラインプログラムへの支援を続けている。今回は東京都市大学からのレポートを紹介するとともに、JSTが実施しているオンライン大学訪問(九州大学)の様子も紹介する。

東京都市大学の活動報告



沖浦 文彦
(東京都市大学都市生活学部 / 大学院環境情報学研究所教授)

アーバンDXと

複合的都市開発の体験

東京都市大学都市生活学部では、わが国の都市開発の経験が発展著しいベトナムにとり参考になる点が多いこと、ベトナム側の取り組みより日本側も学ぶことが多いことから、ベトナムのホーチミン市工科大学およびホーチミン市建築大学と、「アーバンデジタルトランスフォーメーションと複合的都市開発の体験」をテーマとした交流プログラムを実施



オンラインでの参加風景

しました。本学部より山根格教授、林和眞講師(当時、現准教授)および沖浦が講義、運営等を行うとともに、各研究室の学生(3年生)が参加しました。使用言語は英語、参加学生数はベトナム側25名、日本側31名です。

対象が「都市・地域開発」であり、実際に現場を訪問するのが極めて重要であることは当然であるものの、今年度はコロナ禍のためにオンラインでの実施となったものです。しかし、実施した結果、オンラインにはその特性に応じた良さがあることも確認できました。そのことも含めて、プログラム実施結果を報告します。

1) 日程

2020年11月12日より12月20日までの間に原則、毎週木曜日午後3〜4時間程度、講義、学生グループによるワーク報告とその講評を、最終報告会を今年2月4日に実施。成果発表を行いました。オンラインであることから双方の都合を勘案して、無理のない日程で、かつ十分時間もとることが出来たと考えます。

2) 内容

日本、ベトナム双方の教員や外部講師より、本ワークショップのテーマに即した講義をオンラインで実施し、それを受けて、両国の学生が両国の都市開発のこれからのあり方を提案するというグループワークを実施しました。

◇学生ワーク

日本側…「日本の経験からのホーチミン市の都市開発への示唆」「たまプラーザの将来構想」「Ben Thanh地区(ホーチミン市中心部)の開発構想」
ベトナム側…「Ben Thanh地区(ホーチミン市中心部)の開発構想」「Thu Thiem市における新都市開発」の将来構想」

3) オンラインの利点

オンラインでの実施では、上述のとおり日程調整が柔軟にできるほか、要する費用が実招へいよりも大幅に安価であり、参加者数を多く確保できること、などのメリットを確認しました。今後はリアルとオンライン、それぞれの特性を踏まえた柔軟な実施形態を取ることが望ましいと考えます。オンラインプログラムの内容は次のYouTube限定公開リンクよりご覧いただけます。https://www.youtube.com/watch?v=5qwxcxH45I

コロナ禍で交流が困難な中、「さくらサイエンスプログラム」のご支援を受けて、知識や経験の交換、交流を実施することが出来ました。関係各位のご支援に感謝申し上げます。

さくらサイエンス・ハイスクールプログラム

JST、オンライン大学訪問く九州大学く

科学技術振興機構(JST)は、8月23日に九州大学との共催により、第6回さくらサイエンス・ハイスクールプログラム「オンライン大学訪問く九州大学く」を開催した。イベントは、JSTが海外の高校生に日本の大学にオンライン擬似訪問体験を提供し、日本への関心と留学意欲の向上を目的として昨年12月より毎回異なる大学において実施している。今回の九州大学で6回目となる。

今回、初めて完全なオンラインでの開催を試み、九州大学伊都キャンパスを中心に登壇者全員がリモート参加して、東京のスタジオで取りまとめられた映像をZoomウェビナーでライブ配信した。平日にもかかわらず3700名を超える参加者数となり、イベント中には700以上の質問がウェビナー質問箱に投稿された。

15時開始の冒頭、ヨハン・ローレンス九州大学副理事(共創学部教授)が歓迎挨拶の中で、大学のスローガンに掲げている「オープンマインドとクリエイティブスピリット」の意味を解説しながら、九州大学の目指す方向性を示した。司会者を兼務した許斐ナタリー先生による九州大学の概要紹介セッションでは、写真を多用したスライドとともに、大学の立地、学生数、学部紹介をはじめ、学位制度、奨学金の紹介まで、大学の制度と特徴を魅力的に紹介した。

続いて、農学部教授のドラモンド・ダグラス先生からは、農学部研究学科でもある「生物遺伝資源と生物環境」についての研究コース課程、および多くの研究内容事例の紹介があった。その後、同氏より「Can we feed the world and still save the planet?」と題した特別模擬講義を実施。現在、増大し続ける地球環境危機に対して、九州大学農学部が現在取り組んでいる研究課題や将来の展望を、

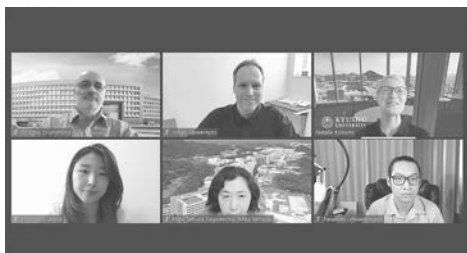
詳細な資料を提示しながらの講義となった。視聴する海外高校生達にとって問題意識が刺激されることとなり、多くの質問が投稿された。

共創学部の紹介では、ローレンス教授がキーコンセプトにもなっている「共創的課題解決力」について、九州大学が多様な環境づくりと国際化の推進を継続しつつ、どの分野においても周りと協力して結論を導き出すことの重要性について説明した。セッション後半には、共創学部所属の韓国の留学生が登壇しスライド表示とともに自身の研究内容と体験談を紹介した。

理工学部からは、田村美香准教授が登壇、英語のみで学位が取れ日本語も学ぶことが出来る学士課程国際コース(IUPE)の概要と、構成されている4つのプログラムについて詳細な説明がなされた。セッションの後半では、現在IUPE就学中のタイの留学生が、日常のキャンパスライフおよび現在の研究内容についてスライドを用いて紹介した。

本イベントで毎回組み込まれている「Basic Information Study in Japan」のセッションでは、今回も日本学生支援機構より、日本の留学制度を説明するビデオ動画の配信に続き、日本留学に関する最新の情報を資料の紹介とともに説明があった。最後の「質疑応答」セッションでは、質問ボックスに投稿された700を超える質問の中から、いくつかの質問についてパネリストから回答がなされた。イベントは定刻通り17時にすべてのセッションが終わり配信は終了した。

このイベントの収録動画は、「オンライン大学訪問」特設ページのアーカイブ(「さくらサイエンスプログラム」ウェブサイト)で視聴可能となっている。



九州大学の先生方と留学生



MCのナタリー先生



ドラモンド教授



ローレンス副理事



田村准教授

■九州大学の回(アーカイブ) URL:<https://ssp.jst.go.jp/EN/jst/online7.html>

■「オンライン大学訪問」トップページ URL:<https://ssp.jst.go.jp/EN/jst/online.html>